

# 統合保育における知的障害児の適応に関する調査研究(1)

藤原 義博\*・平澤 紀子\*\*

(平成11年4月30日受理)

## 要 旨

本研究では、新潟県柏崎市内の普通保育園に入園している知的障害児を対象として、子どもたちがどのように園に適応し、また適応困難を示すかについて、保育形態と保育場面との関連から継年的に明らかにすることを目的に、質問紙調査を実施した。そのうち、本報では、調査の中心的概念である「適応」に関する基本的な考え方と、それに基づいた調査方法の詳細を述べ、平成7年度に実施した1回目の調査結果について報告を行った。

質問紙は市内の普通保育園に共通した3つの保育形態(母子、専従、単独)と保育場面(基本的生活場面、課題場面、行事場面)およびそれらを構成する11の保育活動に関する項目からなり、担当保育士に自立的参加の3段階評定と困った行動の有無を回答してもらった。分析方法は、自立的に取り組んでいる者の割合と困った行動を起こす者の割合を算定した。その結果、より自立的に取り組んでいる者の割合は専従群よりも単独群で高いが、両群共、他の2場面に比べて、『基本的生活場面』で全体に自立的参加の割合が高かった。また、「困った行動」は両群共に『課題場面』で多く、園外活動よりも園内での活動時に多かった。これらの結果から、自立的参加の高い場面や活動の特徴について検討した。

## KEY WORDS

preschool integrated education	統合保育
children with mental handicaps	知的障害児
questionnaire	質問紙調査
nursery setting	保育場面

## 1. はじめに

ノーマリゼーション理念の普及および昭和49年厚生省通達「障害児保育事業実施要項」以来、各地の保育園に障害を持つ幼児が受け入れられてきた(園山, 1994)。それに伴い、さまざまな角度から研究がなされ、現在では、いわゆる統合保育の存在意義を問うことよりも、それを成功させる条件の整備 (Peck & Cooke, 1983) が必要とされている。

そのための研究方法として、保育担当者への質問紙調査により、障害をもつ幼児と障害をもたない幼児を同じ場で一緒に保育をすることの効果や困難が報告されている(例えば、古田・

---

\* 障害児教育講座

\*\* 西南女学院大学

畑山・吉田・山形・白橋, 1983; 後藤・小笠原, 1985; 畑山・古田・足立・白橋, 1990, 1992; 石井・辻・神田・武藤・坂齊・湯汲, 1987; 亀ヶ谷・青山・七田, 1985; 宮本・平田・野村・宮澤・角田・小美野・横尾・大野, 1989)。しかし, その結果は必ずしも一致していない。

これには, 概念的要因, 当該幼児の要因, プログラムの要因, 障害をもたない幼児の要因, 園の要因, 専門機関の要因など, さまざまな要因の影響が考えられることから, どのような条件下でどのような保育的配慮がなされた場合にどのような効果が期待できるかを明らかにすることが急務な課題となっている(園山, 1994)。

このように, 上記の保育効果に関わる諸要因を明確にするための調査研究を進める必要があるが, これまでのところ現在の普通の保育体制で, どのような障害児がどのように園に適応し, あるいは適応困難を示し, それがどのように変化するのかについては, 必ずしも明らかではない。このような普通保育園に措置された障害児の適応状況とその変化過程を調べることにより, 特別の療育や保育的配慮を考える以前に, 現在の保育体制をより積極的に生かすための条件や, まず目指すべき保育目標を明らかにすることができると考える。

そこで, 本研究では, 新潟県柏崎市内の普通保育園に入園している知的障害児を対象として, 子どもたちがどのように園に適応し, また適応困難を示すのかについて, 保育形態と保育場面との関連から継年的に明らかにすることを目的とした。そのうち, 本報では, 調査方法の詳細と平成7年度に実施した1回目の調査結果について報告する。

## 2. 方 法

### 2.1 調査対象

新潟県柏崎市では, 障害幼児とその母親のための早期療育の場として「プレイ教室」が設置されている。現在, 市内在住の障害幼児はこのプレイ教室を経て市内の公立保育園(一部私立保育園)に入園措置されるという体制が整いつつある。そこで, プレイ教室を経て柏崎市内の保育園に入園措置された知的障害幼児を調査対象とした。

### 2.1 質問紙の作成

#### 2.2.1 基本的考え方

調査では, 「適応」を“各保育場面や保育活動における文脈や内容に添った自立的参加”と捉え, 「適応状況」を各保育場面や保育活動における対象児の自立的参加とその技能レベルから, 「適応困難」を困った行動をすることの有無とその内容から査定することにした。

#### 2.2.2 作成方法

市内の複数の保育園を訪問し, その保育形態, 保育スケジュール, 保育活動とその内容について観察した。その結果, 保育形態として, ①専従の担当保育母がついての保育(以下, 「専従」とする), ②専従保育母がつかない普通の保育(以下, 「単独」とする), 母親が付き添っての保育(以下, 「母子」とする)の3形態に分類できた。また, 観察された保育活動とその内容から, ほぼ共通する3つの保育場面と11の保育活動に分類整理し, それぞれを構成する単位活動と必要な適応技能を抽出した。

それを基に, 保育形態に関して, ①保育形態(母子, 専従, 単独), ②在園期間, ③在園時間, ④クラス(所属組, 園児数), 保育場面とそこでの保育活動に関して, ①基本的生活習慣場面(登・

帰園、給食・おやつ、トイレ、着替え)、②課題場面(教室、集会、園外)、③行事場面(遠足、運動会、発表会)からなる質問項目を作成した。それぞれの単位活動に対する“取り組みの様子について”は、[ア. 自分でできる(できる)、イ. 促されたり、補助されればできる(できる)、ウ. しない、無関心(できない)]と[エ. 勝手なことや困ったことをする、オ. する機会がない]で評価し、その“技能の様子について”[A. できる、B. 時々できる、C. できない]の3段階で評価した。また、それぞれの保育活動ごとに自由記述欄を設けた。

この質問項目の内的妥当性を高めるために、プレイ教室に参加していた公立保育園の複数の園長及び保育士に評価してもらい、それを基に質問項目及び回答方法を修正し、文末に掲載した質問紙を作成した。

## 2.3 調査時期および方法

調査は平成7年5月と翌年2月の2回実施した。質問紙は、市の福祉課を通じて配布し、対象児の担当保育士に評価してもらった。質問紙のほとんどは、第一筆者が直接保育園を訪問し、対象児の観察と担当保育士との面談を行った上で回収した。残りは、福祉課を通じて回収した。

なお、本報では5月に実施した第1回目の調査結果のみについて検討を行う。

## 2.4 分析方法

先に述べた「適応」に対する考え方と保育形態の実態に基づいて、適応状況にもっとも影響すると思われる条件から、対象児群を①「母子」群、②「専従」群、③「単独」群の3群に分け、さらに保育活動と保育内容が異なる①基本的な生活場面、②課題場面、③行事場面に分け、それぞれの群と場面から対象児の適応状況の特徴について分析を行った。しかし、「母子」群は1名を除いて、午前中の昼食前までの3時間の在園状況であり、「基本的な生活場面」のみ活動に参加しているものがほとんどであった。また、「基本的な生活場面」での適応状況はほとんどの活動で「ア. 自分でできる」(以下、自立とする)割合が、「イ. 補助されればできる」(以下、要補助)の割合を上回るという結果であった。しかし、この結果は、記入者が保育士であり、対象児が1名を除いてこの4月以降の入所児であることを考えると、対象児の実体を正しく反映しているとは思えない。むしろこの内容は、母親の補助や介助を前提として保育士の手を要しないという“自立”として評価されたものと考えられる。以上のことから、以下では「母子」群を除いた、「専従」群と「単独」群に絞って結果の分析を行った。

結果は、各活動項目ごとに、機会がなかった者を除いて、[ア. 自分でできる、イ. 補助されればできる、ウ. しない]のそれぞれの該当人数の合計に対する割合(%)を算出した。また、機会がなかった者を除いた人数の合計に対する[エ. 勝手なことや困ったことをする]者の割合(%)を算出した。

なお、今回の報告では、“取り組みの様子”で評価された部分のみを分析し、その他の“技能の様子”や“参加状況”、自由記述部分についての分析は行わなかった。

# 3. 結 果

## 3.1 対象児と保育形態(表1)

表1に示したように、対象児は3歳児8名、4歳児12名、5歳児9名であった。在園期間は

2ヶ月から2年1ヶ月、在園時間は3時間半から10時間の範囲であった。所属クラスは未満児、年少、年中、年長クラスの他、未満児と年少児、年少児と年中児、年中児と年長児との混合クラスがあった。クラス規模は最少3人から最大32人であった。主要な保育形態は、母親が対象児について保育する「母子」通園が7名、対象児に専属のパート保育がつく「専従」が8名、専従保育が見つからない「単独」が14名であった。

表1 対象児と保育環境

条件	対象児	1	2	3	4	5	6	7	
母子	保育園	I	I	I	J	H	H	J	
	年齢	4	4	5	5	4	3	4	
	在園年月	0.2	0.2	0.3	0.1	1.1	0.2		
	登園時刻		9:00	9:00	9:00	8:15	9:00		
	帰園時刻		11:00	11:00	12:30	16:00	12:30		
	在園時間	3	3	3	3.5	7.8	3.5		
	クラス 園児数	3	3	3	年長 31	年中 21	年少 10	年中 24	
専従	対象児	1	2	3	4	5	6	7	8
	保育園	A	B	C	D	E	F	G	H
	年齢	3	4	4	4	3	5	3	5
	在園年月	2.1	1.3	1.2	0.9	0.2	1.1	0.2	1.1
	登園時刻			9:00		8:30	9:00	8:30	9:00
	帰園時刻			12:30		13:00	16:00	12:30	15:15
	在園時間	6.5	7.5	3.5		4.5	7	4	6
クラス 園児数	年少 19	年中 18	年長 17	中・少 15	未・少 11	年長 30	年少 20	年長	
単	対象児	1	2	3	4	5	6	7	
	保育園	B	B	K	A	L	M	E	
	年齢	5	4	5	3	3	3	4	
	在園年月	2.1	0.2	1.2	0.2	0.5	0.2	1.1	
	登園時刻				9:00	8:30	8:50	8:30	
	帰園時刻				16:00	16:20	14:20	16:00	
	在園時間	6	7.5	7.5	7	7.9	5.5	7.5	
クラス 園児数	年長 22	年中 18	年長 32	年少 19	年少 21	年少 16	中長 32		
独	対象児	8	9	10	11	12	13	14	
	保育園	E	J	A	N	O	F	J	
	年齢	5	4	3	4	4	5	5	
	在園年月	1.1	3.1	0.2	1.1	0.2	2.1	1.2	
	登園時刻	8:30	8:30	7:50	8:30	8:40	7:30	8:30	
	帰園時刻	16:00	18:00	16:00	16:00	13:00	17:30	16:00	
	在園時間	7.5	9.5	8.2	7.5	4.3	10	7.5	
クラス 園児数	中長 32	年中 24	中少 19	中長 22	年中 16	年長 32	年長 31		

<注> 空欄部分は未記入であった。

3.2 基本的な生活場面での適応状況 (表2)

専従群では、「着替え場面」を除く場面で、「要補助」項目の割合が高く、靴の着脱や出し入れ、箸やスプーンの使用、排便・排尿といった毎日の生活に必要な技能や活動で半数以上のものが自立的に取り組んでいた。しかし、「着替え」に関してはほとんど補助を要するか、できないものが多かった。また、給食場面で、「いただきますをするまで待てない」、「途中で徘徊する」、「人のものに手を出す」、「騒ぐ」、「後かたづけをしない」といった問題を示すものが数名見られた。

単独群では、同じく着替え場面を除く場面でほぼ自立的に取り組むものが多く、また、着替え場面でも半数以上のものが「要補助」以上の取り組みを示した。また、給食場面の専従群と同様の活動項目で問題行動を示すものが1、2名見られた。

表2 基本的な生活における保育形態別に見た適応の様子(%)

場面	保育形態 評定	専従(8名)				単独(14名)				全体(22名)			
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
登・帰園場面	靴着脱	50	50	0	0	79	21	0	0	68	32	0	0
	靴左右	25	63	13	0	36	57	7	0	32	59	9	0
	下駄箱	50	50	0	0	79	21	0	0	68	32	0	0
	朝・挨拶 しまう	0	75	25	0	43	50	7	0	27	59	14	0
	帰・挨拶	13	50	38	0	57	36	7	0	41	41	18	0
	持ち帰る	13	75	13	0	54	38	8	0	38	52	10	0
		25	63	13	0	57	36	7	0	45	45	9	0
給食おやつ場面	移動	38	63	0	0	69	31	0	7	57	43	0	5
	手洗い	0	88	13	0	38	62	0	7	24	71	5	5
	準備	13	75	13	0	50	43	7	0	36	55	9	0
	係	0	75	25	0	27	55	18	0	20	60	20	0
	待つ	14	57	29	13	77	15	8	0	55	30	15	5
	始・挨拶	25	75	0	0	57	29	14	0	45	45	9	0
	徘徊なし	71	0	29	13	64	36	0	21	67	22	11	18
	手出しなし	50	17	33	25	85	15	0	7	74	16	11	14
	さわがない	40	40	20	38	64	36	0	15	56	38	6	24
	スプーン	100	0	0	0	86	14	0	0	89	11	0	0
	はし	57	43	0	0	79	14	7	0	71	24	5	0
	偏食なし	43	29	29	0	55	27	18	15	50	28	22	10
	はみがき	0	67	33	0	46	46	8	7	32	53	16	5
片づけ	0	71	29	13	43	50	7	0	29	57	14	5	
終・挨拶	13	75	13	0	54	38	8	7	38	52	10	5	
トイレ場面	移動	50	50	0	0	77	15	8	0	67	29	5	0
	ズボン着脱	43	57	0	0	64	36	0	0	57	43	0	0
	パンツ着脱	43	57	0	0	71	29	0	0	62	38	0	0
	トイレ座る	67	33	0	0	83	17	0	0	78	22	0	0
	排泄	57	43	0	0	86	14	0	0	76	24	0	0
	排便	50	50	0	0	78	11	11	0	69	23	8	0
	手洗い	0	100	0	0	23	77	0	7	14	86	0	5
	時間内	14	71	14	0	50	50	0	0	38	57	5	0
着替え場面	準備	14	14	71	0	17	75	8	0	16	53	32	0
	時間内	0	14	86	0	17	58	25	8	11	42	47	5
	服	0	38	63	0	36	64	0	0	23	55	23	0
	ボタン	13	50	38	0	64	29	7	0	45	36	18	0
	前後	14	0	86	0	31	62	8	0	25	40	35	0
	ズボン	25	63	13	0	50	50	0	0	41	55	5	0
	くつした	0	50	50	0	40	50	10	0	25	50	25	0
	ファスナー	0	40	60	0	13	50	38	0	8	46	46	0
しまう	0	33	67	0	0	80	20	9	0	63	38	6	

## 3.3 課題場面での適応状況(表3)

課題場面においては、専従群のほとんどが一人では取り組めない状態で、特に集会室活動、園外活動では半数以上のもが取り組めない活動項目が多かった。しかし、教室活動の「着席」は半数以上のもが自分で座るか補助すれば座っており、また、場面を問わず「集まる」「挨拶する」といった活動には半数以上のもが補助すれば取り組んでいた。

一方、単独群では、すべての課題場面で少なくとも補助すれば取り組むものの割合が高く、また自立的に取り組むものもみられた。しかし、教室活動に比べて集会室及び園外活動では補助を要するものの割合が多かった。また、単独群と同様に、すべての場面で「集まる」「挨拶する」といった活動での自立的に取り組むものの割合が高く、教室活動で自立的に、あるいは補助があれば「着席」や「座って先生の説明を聞く」ものの割合が高かった。

また、困った行動がみられる活動項目は専従群で多かったが、すべての活動場面の「集まって遊ぶ」活動や、教室活動や集会室活動の「課題」や「活動」時に「徘徊」するものが共通してみられた。

表3 課題場面における保育形態別に見た適応の様子(%)

場面	保育形態 評定	専従(8名)				単独(14名)				全体(22名)			
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
教室活動	集合	14	57	29	13	46	46	8	7	35	50	15	9
	着席	38	38	25	0	64	21	14	0	55	27	18	0
	準備	0	75	25	0	31	69	0	0	19	71	10	0
	始・挨拶	0	50	50	0	33	67	0	0	20	60	20	0
	指示説明	0	57	43	13	55	36	9	21	33	44	22	18
	課題	0	86	14	13	27	73	0	15	17	78	6	14
	徘徊なし	17	17	67	25	42	33	25	14	33	28	39	18
	片づけ	0	57	43	13	0	100	0	0	0	86	14	5
	終・挨拶	0	50	50	0	60	40	0	17	33	44	22	10
集会室活動	集合	0	71	29	0	36	55	9	15	22	61	17	10
	遊ぶ	0	33	67	14	27	45	27	15	18	41	41	15
	着席	0	33	67	14	38	38	23	0	26	37	37	5
	準備	0	40	60	0	25	58	17	0	18	53	29	0
	始・挨拶	0	50	50	0	43	57	0	0	27	55	18	0
	指示説明	0	33	67	14	38	31	31	0	26	32	42	5
	活動	0	50	50	14	25	58	17	8	17	56	28	10
	ルール	0	20	80	29	8	54	38	0	6	44	50	10
	徘徊なし	0	25	75	43	36	36	27	15	27	33	40	25
片づけ	0	20	80	17	9	73	18	8	6	56	38	11	
終・挨拶	0	25	75	0	43	57	0	0	27	45	27	0	
園外活動	集合	0	63	38	0	36	55	9	15	21	58	21	10
	し遊ぶ	0	43	57	13	9	64	27	15	6	56	39	14
	準備	0	17	83	0	25	67	8	0	17	50	33	0
	始・挨拶	0	50	50	0	50	50	0	0	25	50	25	0
	指示説明	0	17	83	25	25	42	33	0	17	33	50	10
	課題	0	40	60	38	29	57	14	0	17	50	33	20
	ルール	0	33	67	25	9	73	18	0	6	59	35	11
	徘徊なし	0	20	80	38	30	40	30	0	20	33	47	17
	片づけ	0	50	50	14	8	67	25	0	6	61	33	5
終・挨拶	0	40	60	0	50	50	0	0	22	44	33	0	

3.4 行事場面での適応状況 (表4)

行事場面においては、専従群では、自立的に取り組むことができる活動項目はほとんどなく、補助がなくては取り組めないものが多かった。また、式典を除いて、「指示に従う」「ルールを守る」といった行事場面で共通して求められる活動項目に問題があるとされ、「徘徊」するものも見られた。

単独群では、行事場面のほとんどの活動で補助されてか、自立的に取り組んでいた。しかし、その割合は補助を要するものが半数以上を占め、特に「運動会」ではほぼ全員が補助を必要としていた。また、問題があるとされた活動項目とその人数は少なかった。

表4 行事場面における保育形態別に見た適応の様子(%)

場面	保育形態	専従(8名)				単独(14名)				全体(22名)			
	評定	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
遠足	参加様式	0	100	0	0	0	100	0	0	0	100	0	0
	移動	0	67	33	14	38	54	8	0	26	58	16	5
	準備片づけ	0	29	71	0	23	69	8	0	15	55	30	0
	指示従う	0	50	50	14	33	58	8	8	22	56	22	10
	ルール	0	33	67	14	38	46	15	0	26	42	32	5
	活動	17	33	50	14	46	54	0	0	37	47	16	5
運動会	参加様式	0	100	0	0	0	100	0	0	0	100	0	0
	移動	0	100	0	0	0	100	0	0	0	100	0	0
	準備片づけ	0	67	33	0	0	100	0	0	0	86	14	0
	指示従う	0	100	0	33	0	100	0	0	0	100	0	14
	徘徊なし	0	50	50	33	25	50	25	0	17	50	33	14
	ルール	0	50	50	33	0	75	25	0	0	67	33	14
活動	0	100	0	33	0	100	0	0	0	100	0	14	
発表会	参加様式	0	100	0	0					0	100	0	0
	移動	0	57	43	0	31	62	8	7	20	60	20	5
	準備片づけ	0	40	60	0	23	62	15	0	17	56	28	0
	指示従う	0	67	33	14	21	64	14	0	15	65	20	5
	徘徊なし	0	40	60	17	33	50	17	14	24	47	29	15
	ルール	17	33	50	14	27	64	9	8	24	53	24	11
活動	14	57	29	0	36	50	14	0	29	52	19	0	
式典	参加様式	0	100	0	0	0	100	0	0	0	100	0	0
	移動	0	83	17	0	18	73	9	0	12	76	12	0
	準備片づけ	0	50	50	0	25	75	0	0	17	67	17	0
	指示従う	0	67	33	0	18	73	9	0	12	71	18	0
	徘徊なし	0	50	50	0	64	18	18	0	41	29	29	0
	ルール	0	33	67	0	30	60	10	0	19	50	31	0
活動	0	50	50	0	27	64	9	0	18	59	24	0	

## 4. 考 察

今回の調査では、普通保育園に措置された知的障害児の適応状況とその変化過程を調べるのが目的であった。そのために、どのような場面や活動時にどれほどの参加が得られているのか、あるいはどのような適応困難を示しているのかを具体的に明らかにするために、保育場面と保育活動を観察し、それを基に『基本的生活場面』『課題場面』『行事場面』の3つの保育場面とそこに含まれる11の保育活動に分類整理した質問紙を作成した。そして、このような調査によって、どのような保育場面や保育機会にどれほどの保育効果が期待できるか、また、どのような場面や活動機会にどのような配慮が必要かを知るための手がかりが得られると考えた。

調査結果から、保育形態として、知的障害児に母親が付き添って保育する母子群、知的障害児に専従のパート保育母がついて保育する専従群、専従保育母がつかない単独群の3つが見いだされたが、今回の報告では専従群と単独群について分析を行った。また、調査結果のうち、各保育場面や活動において自立的に取り組んでいるものの割合(以下、「自立的参加の割合」とする)と、そこで見られる困った行動の生起の割合について分析を行った。

### 4.1 保育場面における全体的な傾向

保育場面における結果を比較してみると、全体的にはより自立的に取り組んでいるものの割合は専従群よりも単独群で高いが、両群に共通して、他の2場面に比べて、『基本的生活場面』で全体に自立的参加の割合が高かった。また、「困った行動」は両群共に『課題場面』で多く、園外活動よりも園内での活動時に多かった。その活動項目は、両群とも「教室活動」では「集合」、「指示説明を聞く」、「課題」といった活動時で、「集会室活動」では「並ぶ」、「活動」、「片づけ」時で共に教室や集会室内での「徘徊」が見られた。

こうした結果から伺えるのは、保育所で必ず毎日繰り返される活動や構造化の高い場面により自立的に取り組む傾向があり、構造化が低いか、子どもにとって活動内容の理解や活動の見通しが困難な場面や活動では自立的参加の割合が低いか、その場や活動に不適切な行動が生起すると推察される。

そこで、以下では、自立的な参加の割合が高いものとそうでない活動項目に分けて、その特徴について詳細に検討してみたい。

### 4.2 自立的な参加の割合が高い活動項目とその特徴

両群共に自立的参加の割合が高い活動項目は、「靴の着脱」「靴の出し入れ」、給食時に「立ち歩かない」「人のものに手を出さない」「スプーン」「はし」を使用する、トイレ時の「移動」「座る」「排尿」「排便」であった。これらの活動項目では、単独群ではさらに自立的参加の割合が高く、加えて給食時に「いただきますまで待つ」「さわがない」、トイレ時の衣服の着脱、「ボタンはめ」、課題時に「席に着く」などの自立的参加の割合が高かった。

これらの活動項目を見ると、先に推察したように、毎日決まった場面で繰り返される頻度が高い活動であり、活動に関係する環境設定が一定で、活動のルールや手順が一貫した構造化が高い活動であると思われる。したがって、これらは、子どもにはわかりやすく取り組みやすい活動であり、しかも学習機会が頻繁なことからより自立的な取り組みが達成されやすい活動で



あると考えられる。

#### 4.3 自立的な参加の割合が低い活動項目とその特徴

両群共に、活動に対する自立的参加の割合の低い項目は、着替え時の「準備」「時間に間に合う」「ファスナー」「脱いだものを(たたんで)所定の場所にしまう」、課題保育時の「活動をする」「うろうろしない」、集会時や園外活動時の「並ぶ」「決められた場所に着く」「準備」「先生の指示説明を聞く」「活動する」「ルールを守る」「うろうろしない」「後かたづけ」であった。特に専従群では、これらの項目で「しない(できない)」割合が高かった。同時に、これらの活動項目のほとんどで、困ったことをするものがあることが報告されている。

これらの活動のほとんどは、子どもにとって技能的に高い活動か、理解することが難しい活動であると思われる。例えば、「ファスナー」「脱いだものを(たたんで)所定の場所にしまう」や課題活動などは高い技能を要する活動であり、着替え時の「準備」「時間に間に合う」や課題活動、「先生の指示説明を聞く」「活動する」「ルールを守る」などは活動の見通しや理解が困難な活動である。また、集会時や園外活動時の「並ぶ」「決められた場所に着く」「後かたづけ」は場面の構造化が低い中での活動である。したがって、以上のような活動や場面では回避的に「うろうろする」といった徘徊が生じやすいと思われる。また、単独群の「運動会」の活動項目のほとんどが「要補助」で占められているのは、実際には活動時に誰かが付き添って活動を行っているためと推察される。

#### 4.4 自立的な活動への参加と活動場面の特徴

これまでの調査結果の分析から、自立的な参加の割合が高い場面や活動の特徴として、①着替え、排泄、食事のような毎日の生活に必要で、頻繁に繰り返される、②場面の構造化が高く、活動のルールや手順が一貫しており、子どもにとって活動するための手がかりが豊富でわかりやすい、③活動に要する技能が容易である、といったことが示唆される。逆に、①必要度や頻度が低く、②構造化が低くて手がかりに乏しく、③必要とされる技能の難度が高いような場面や活動では、自立的な参加の割合が低く、時に不適切な行動が生じやすいことが示唆される。

したがって、前者のような特徴を持つ場面や活動では保育活動に対する自立的参加の割合が高いことから、その活動に含まれる保育効果が期待できるのに対して、後者のような場面や活動では、何らかの配慮なくしては十分な保育効果が期待できないと考えられる。

#### 4.5 おわりに

以上のように、今回の調査から、知的障害児の自立的な参加が期待される保育場面や活動、そして自立的な参加が期待されにくく困った行動が生じやすい保育場面や活動とその特徴が示唆された。これによって、統合保育される知的障害児にとって、どのような保育場面や保育機会ですべての保育効果が期待できるかを予測するための手がかりが得られたと考える。こうした手がかりを得ることで、まず確実に期待される保育効果を目指して見通しを持って保育を進めることができると思われる。また、自立的な参加と関連した場面や活動の特徴を知ることで、保育効果を確実にするための日常的な保育的配慮に対する示唆が得られたと思われる。

実際の知的障害児の保育に当たっては、こうした手がかりから、日常の通常の保育によって得られる保育効果をまず確実にした上で、さらに可能な保育的配慮を検討し、進めていくこと

がもっとも妥当な方略であろう。

しかし、今回得られた結果は、第1回目の調査のみのものであり、しかもまだ部分的な分析から得られたにすぎない。今後、第2回目以降の調査結果と比較して、適応状況の変化も見る中でその妥当性を検討する必要がある。また、今回の調査結果では、知的障害児の発達の程度や技能レベルとの関連、保育的配慮の違いとの関連については検討できなかった。こうした要因は今回得られた結果に大きく影響するものであり、今後検討すべき課題であると思われる。

## 謝 辞

本研究の調査に当たり、調査用紙の作成や配布・回収に当たって多大のご協力をいただいた柏崎市民生部福祉課および保健婦のみなさん、柏崎市プレー教室担当の保母のみなさん、そして、忙しい中で調査に協力してくださった保育所の保母さんおよび園長先生に心から御礼を申し上げます。

## 文 献

- 古田倭文男・畑山みさ子・吉田栄・山形潔子・白橋宏一郎(1983) 障害児の統合保育の現状と課題。宮城学院女子大学研究論文集, 59, 21-39.
- 後藤守・小笠原詠子(1985) 統合保育の動向。北海道教育大学紀要, 第1部, C, 35(2), 101-114.
- 畑山みさ子・古田倭文男・足立智昭・白橋宏一郎(1990) 障害児の統合保育に関する調査研究(2)―宮城県の幼稚園および保育所における現状の検討。発達障害研, 12, 146-154.
- 畑山みさ子・古田倭文男・足立智昭・白橋宏一郎(1992) 障害児の統合保育に関する調査研究(3)―保育条件とその効果について。発達障害研究, 14, 126-135.
- 石井葉・辻滋子・神田武子・武藤英夫・坂斉光子・湯汲英史(1987) 障害児保育の問題点と今後の展望に関する一考察(第1報)―障害児受け入れ保育園での諸問題を中心に―。安田生命社会事業団研究助成論文集, 23(1), 1-10.
- 亀ヶ谷三郎・青山キヨミ・七田哲実(1985) 保育所における統合保育。日本保育学会第36回大会研究論文集, 660-661.
- 宮本文雄・平田幸宏・野村勝彦・宮澤脇・角田隆男・小美野みつる・横尾螢子・大野由三(1989): 精神遅滞幼児の統合保育に関する研究―障害幼児と健常幼児のかかわりの分析を通して―。筑波大学学校教育学部紀要, 11, 95-109.
- Peck, C. A. and Cooke, T. P. (1983) Benefits of mainstreaming at the early childhood level: How much can we expect? Analysis and Intervention in Developmental Disabilities, 3, 1-22.
- 園山繁樹(1994): 障害児の統合保育をめぐる課題―状況要因の分析―。教育学研究, 32(3), 57-68.

【質問紙】

保育園適応チェックリスト

	記入年月日	199 年 月 日
	園 名	
	記 入 者	
対象児名		
生年月日	199 年 月 日 ( 歳)	
入園年月日	199 年 月 日 ( 歳)	
通園状況	[①単独で ②母親がつく ③専従保母(ハート)がつく] 登園回数 [①毎日, ②週 回(曜日: )] 登園時間 ( 時 分) 帰園時間 ( 時 分) 本年度内に通園形態に変更があれば次に記入して下さい ( )	
配属クラス	①未満児組 ②年少組 ③年中組 ④年長組 ⑤混合 ( ) クラス園児数 人 : 保母数 人 (専従を除く)	

このチェックリストは園での対象児の活動の様子について知るためのものです。

\*最初の2ページでは、対象児の発達の様子をお尋ねします。該当する項目の全てに○を、出来ない項目には×を記入欄につけて下さい。

\*3ページ以降は、質問項目ごとに、対象児の活動への①とりのくみの様子、②技能の様子について、それぞれ下記の枠内に示した様子にあてはまる記号を選び、丸をつけてください。

<とりくみの様子について> ア. 自分でする (できる) イ. 促されたり、補助されればする (できる) ウ. しない、無関心 (できない) エ. 勝手なことや困ったことをする オ. する機会がない	<技能の様子について> A. できる B. 時々できる C. できない
--	--

\*その他、質問項目にお答え下さい。また、困っていることがあれば、各項目の最後の欄にその具体的な内容をお書きください。

それではお手数ですがよろしく御願いたします。

1. 登、帰園場面について

- ・靴や内ばきの着脱----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・靴や内ばきの左右を正しくはく--- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・靴のげた箱への出し入れ----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・「ないはよう」のあいさつ----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・カバンや持ち物をしまう----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・「さよなら」のあいさつ----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・カバンや持ち物を持ち帰る----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)

\*困っていること

2. 給食、おやつ場面について

- ・食事場所への移動----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・手を洗う----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・おべんとうを出すなどの準備--- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・係りの仕事 ( ) - (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・「いただきます」まで待つ----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・「いただきます」をする----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・給食時間中は立ち歩かない----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・人の物に手を出さない----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・さわがない----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・スプーンを使って食べる----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・はしを使って食べる----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ひどい偏食をしないで食べる---- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・はみがきをする----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・あとかたづけをする----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ごちそうさまをする----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)

\*困っていること

3. トイレ場面について

\*現在、子どもは、(当てはまる番号に丸をつけてください)

(①おむつ, ②トレーニング・パンツ, ③パンツ)を使用している。

\*現在、トイレへは、(当てはまる番号のすべてに丸をつけてください)

- ①保母が定時につれていく
- ②子どもが保母に知らせ、連れていってもらう
- ③子どもが自分でいく
- ④その他 ( )

- ・トイレへの移動----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ズボンの着脱----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・パンツの着脱----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・トイレに座る----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・排尿----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)

- ・排便----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・用を足した後に、手を洗う----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)

\* 困っていること

#### 4. 着替え場面について

\* 今、図で着替えをするのはどんな時かお書きください。

- ・必要なもの(かご等)を準備する- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・時間に間に合うように着脱する- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・服の着脱----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ボタンはめ----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・前後ろを正しく着る----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ズボンの着脱----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・くつしたの着脱----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ファスナー----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・脱いだものを (たたんで)  
所定の場所に置く ----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)

\* 困っていること

#### 5. 課題保育場面について

##### 1) クラスでの活動について

\* 今、クラス内でしている課題保育はどんなことですか。

下記の欄に活動内容を記入し、そのうち子どもが参加しているものに丸をつけてください。(記入例：絵画、工作、歌を歌う)

- ・時間に活動場所に集合する--- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・決められた席につく----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・道具などを準備する----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・はじめのあいさつ----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・着席して先生の説明を聞く--- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・活動をする----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・活動中はうろうろしない--- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・後かたづけ----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・終りのあいさつ----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)

\* 困っていること

##### 2) プレイルーム(集会室)での活動について

\* 今、プレイルームでしている課題保育はどんなことですか。

下記の欄に活動内容を記入し、そのうち子どもが参加しているものに丸をつけてください。(記入例：集会、おゆうぎ)

- ・時間に活動場所に集合する--- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・列に並ぶ----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・決められた場所(席)につく--- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・用具などを準備する----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・はじめのあいさつ----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・先生の指示や説明を聞く--- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・活動をする----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・順番やルールを守る----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・課題中はうろうろしない--- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・後かたづけ----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・終りのあいさつ----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)

\* 困っていること

##### 3) 園外での活動について

- ・活動場所に集合する----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・決められた場所に並ぶ----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・用具などを準備する----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・はじめのあいさつ----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・先生の指示や説明を聞く--- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・課題をする----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・順番やルールを守る----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・活動中はうろうろしない--- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・後かたづけ----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・終りのあいさつ----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)

\* 困っていること

6. 自由遊び場面について

\* 今、園でどんな遊びをしていますか。

上欄に皆(健常児)が、下欄に対象児がしている遊びを記入してください。

(健常児の遊び)

(対象児の遊び)

\* 対象児の遊びかたについて、下記のあてはまる番号すべてに丸をつけてください。

- ①本来の目的にそって、かつそれを工夫して遊ぶ
- ②本来の目的にそって遊ぶ
- ③次から次へと遊びを変える
- ④単純な操作や動作を繰り返したり、本来の目的以外の遊び方をする
- ⑤他児となんとなく一緒にいる(他児のすることを見ている)
- ⑥保育室内外を徘徊する
- ⑦保育室でボヤーとしている
- ⑧自分の身体をいじっている
- ⑨友達に誘われれば一緒に交る
- ⑩先生に誘われれば一緒に交る
- ⑪その他( )
- ・おもちゃや遊具を準備する(ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・終りの時間に止める(ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・片づける(ア イ ウ 困 ない) (A B C)

\* 困っていること

7. 行事場面について

\* 今、園でどんな行事をしていますか。

下記の欄に行事を記入し、そのうち対象児が参加している行事に丸をつけてください。

(記入例：運動会、遠足、お誕生会)

1) 遠足等の園外行事

\* 参加状況についてあてはまるものに丸をつけてください。

- ①特別に誰もついていない
- ②専従の保育がつく
- ③母親がつく
- ④参加していない
- ⑤その他( )

- ・活動場所での移動(集合など) (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・準備や片付け(ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・先生の指示に従う(ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ルールを守る(ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・活動をする(ア イ ウ 困 ない) (A B C)

\* 困っていること

2) 運動会

\* 参加状況についてあてはまるものに丸をつけてください

- ①特別に誰もついていない
- ②専従の保育がつく
- ③母親がつく
- ④参加していない
- ⑤その他( )

- ・活動場所での移動(集合など) (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・準備や片付け(ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・先生の指示に従う(ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・活動場所にずっといられる(ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ルールを守る(ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・活動をする(ア イ ウ 困 ない) (A B C)

\* 困っていること

3) 発表会、お誕生会等の園内行事

\* 参加状況についてあてはまるものに丸をつけてください

- ①特別に誰もついていない
- ②専従の保育がつく
- ③母親がつく
- ④参加していない
- ⑤その他( )

- ・活動場所での移動(集合など) (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・準備や片付け(ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・先生の指示に従う(ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・会の間座ってられる(ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ルールを守る(ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・活動をする(ア イ ウ 困 ない) (A B C)

\* 困っていること

#### 4) 入園式等の式典行事

\* 参加状況についてあてはまるものに丸をつけてください

- ① 特別に誰もついていない
- ② 専従の保育がつく
- ③ 母親がつく
- ④ 参加していない
- ⑤ その他 ( )

- ・ 活動場所での移動 (集合など) (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ 準備や片付け----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ 先生の指示に従う----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ 式の間座ってられる----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ ルールを守る----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ 活動をする----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)

\* 困っていること

#### 5) 宿泊等の行事 (実施していない場合は記入は不要)

\* 参加状況についてあてはまるものに丸をつけてください

- ① 特別に誰もついていない
- ② 専従の保育がつく
- ③ 母親がつく
- ④ 参加していない
- ⑤ その他 ( )

- ・ 活動場所での移動 (集合など) (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ 準備や片付け----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ 先生の指示や説明に従う---- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ ルールを守る----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ 活動をする----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)

\* 困っていること

#### 8. その他の活動場面について

\* 今、園でしている活動で、いままでの質問以外のものがありましたら下記の欄に記入し、そのうちお子さんが参加しているものに丸をつけてください。(記入例：昼寝)

- ・ 活動場所での移動 (集合など) (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ 準備や片付け----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ 先生の指示に従う----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ 活動場所にずっといられる-- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ ルールを守る----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)
- ・ 活動をする----- (ア イ ウ 困 ない) (A B C)

\* 困っていること

## Analysis of Questionnaire on Adaptation of Children with Mental Handicaps in Preschool Integrated Education 1

Yoshihiro FUJIWARA\*, Noriko HIRASAWA\*\*

### ABSTRACT

The present study aimed to investigate how children with mental handicaps attending a public preschool in Kashiwazaki City in Niigata Prefecture adapted successfully or had difficulties in an ordinary nursery settings. This paper reported our basic view on the 'adaptation' which was the central concept of this questionnaire and its methodologies, and showed the first research results implemented in 1995.

The questionnaire covered three kinds of nursery patterns [with mother, with care person, self] and three types of nursery settings, routine activities setting, task setting, and event setting which included 11 activities. Teachers in charge of these children were asked to evaluate the children's self participation according to the three stages and their difficulties. The data were analyzed according to the ratio of the numbers of children engaged independently and the numbers exhibiting problem behavior.

The results indicated that the self-group showed higher self-participation than the person-help group. However, each group tended to show higher self participation in the routine activities compared to the task setting or event setting. On the other hand, problem behavior tend to be higher in task setting, especially outdoor rather than indoor activities. From these results, the features of settings and activities inherent to higher self participation were discussed.

---

\* Division of Special Education

\*\* Seinan-Jogakuin University